

奄美フォレストポリス  
水辺の広場 生き物ガイド

ほぼ実物大の生き物たち



ベニトンボ



タテハモドキ



コフキヒメイトトンボ



オオウナギ

オキナワチョウトンボ



カダヤシ



コシブトンボ

リュウキュウヒメミスマシ



アマミシリケンイモリ



トビイロゲンゴロウ

タイワンウチワヤンマ



アオタテハモドキ



タイリクショウジョウトンボ



カワセミ



奄美フォレストポリス  
水辺の広場 生き物ガイド

2025年3月発行  
制作：NPO法人奄美野鳥の会  
協力：打和侑菜、鈴木真理子 写真提供：打和侑菜、環境省、鈴木真理子  
参考資料：大和村公式ホームページ、ネイチャーガイド奄美大島のトンボ(鷺谷いづみほか)、わきゃあまみ19奄美群島のため池にすむ生きものたち(奄美自然体験活動推進協議会)、奄美群島の生物史学(奄美群島の生物多様性(水田拓)、この冊子は「公益財団法人JAC環境動物保護財団」の助成を受けて制作しました。

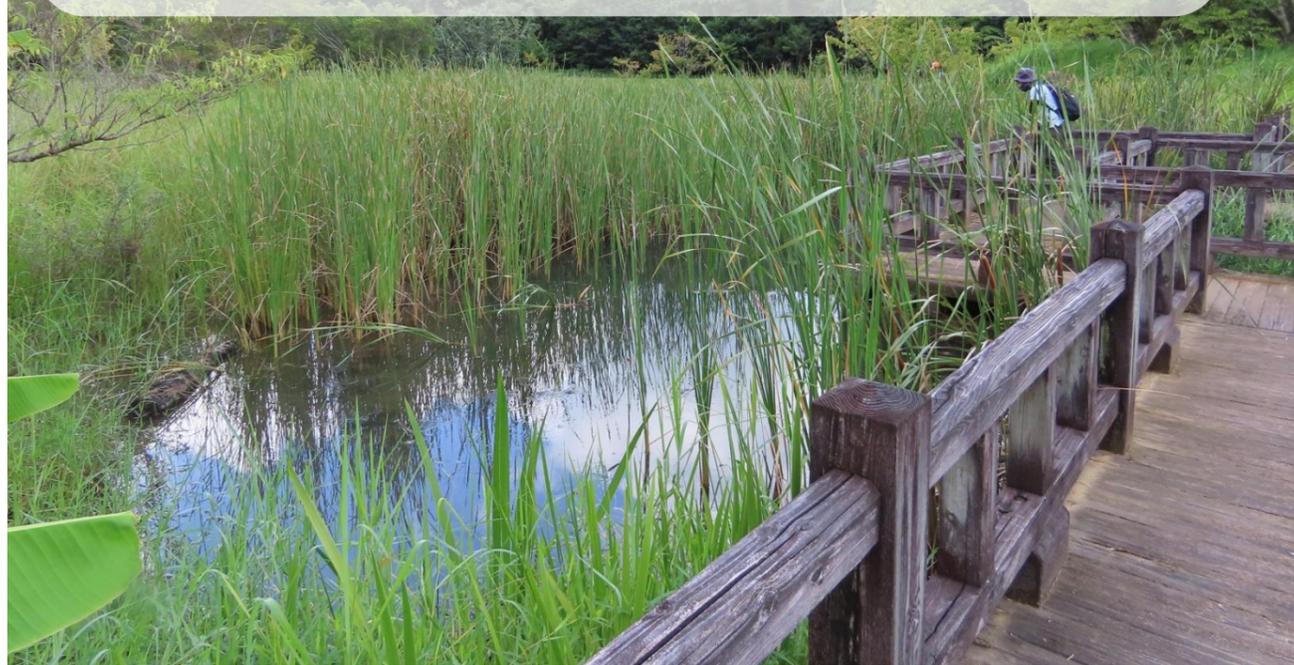


公益財団法人  
JAC環境動物保護財団  
JAC Environmental & Animal  
Protection Foundation

自然豊かな大和村は、起伏のある山々や多くの溪流を携え、様々な生き物たちが密に生息しています。深い森の中にある奄美フォレストポリスは、奄美群島国立公園（第1種特別地域、第2種特別地域）に指定されており、生物多様性を体感できる自然観光スポットです。

特に水辺の広場にある5つの池は、住用川からの水が流れ込み1年中豊富な水を蓄える止水環境となっており、湿地や田んぼなどが少ない奄美大島では、水辺を好む動植物にとって貴重な生活場所となっています。このような環境があることによって、トンボやチョウ、カエルや鳥など、一年を通して様々な生き物を観察することができます。

この冊子では奄美フォレストポリス水辺の広場でよく見られる生きものを紹介しています。



## ルールを守って、水辺の生き物たちを観察しよう！

奄美フォレストポリスにはルールがあります。これらのルールは奄美フォレストポリスに生息する生き物たちを守るためのルールです。足を踏み入れる前に看板などでも確認しましょう。

### 生き物をとらない 持ち込まない

奄美フォレストポリスの敷地内では、鹿児島県レッドデータブックに記載されている希少な動植物の採取が禁止されています。水辺の広場内ではなるべくその場で観察して楽しむだけにしましょう。

また、よそから生き物を持ち込むことも厳禁です。それらの生き物は外来種となって、元々いた生き物を追いやってしまうこともあります。詳しくは大和村野生動物保護条例をご確認ください。

### ゴミは持ち帰ろう

ゴミが捨てられると水が汚れたり、生き物が生活しづらくなったりします。ゴミは必ず持ち帰りましょう。

### 遊歩道から外れて歩かない

草むらにはハブなどの危険生物がいます。水際の泥には外来種のタネや茎が含まれており、その上を歩き回ることによってそれを拡げてしまう原因にもなります。遊歩道を歩くようにしましょう。



南西諸島では水田やため池がほとんどなくなってしまったため、ゲンゴロウやミズスマシなどの水生昆虫は急速に数を減らし続け、種によっては地域的な絶滅も後を経たない。

### オオウナギ

フィリピン東方の深海で生まれ、はるばる海を渡って奄美に。住用川を遡ってダムや数々の滝や堰を超えてたどり着いた。数年後に来た道を降って産卵におもむく。



### リュウキュウヒメミズスマシ

成虫は水面を泳いで生活する。スピードや泳ぎ方は様々で見ていて飽きない。幼虫は水中を泳いで生活する。国内希少野生動物種に指定されている。



### トビロゲンゴロウ

毛のはえた大きな後ろ足で泳ぐ。多くの水生昆虫が減っていく中で本種はまだ普通に見ることができる。



### ドジョウ

池の底で生活する。フォレストポリスに生息するものは中国原産の外来種。



### 小さな魚の群れを発見！

### カダヤシ

メダカに似ているが、北米原産の侵略的外来種。特定外来生物に指定されており、池から生きだまま持ち出すと法律違反!!



## 池の周りにも、いろいろな虫がいるよ ここではチョウの仲間を紹介



### ナガサキアゲハ

遊歩道に溢れた水にはアゲハチョウの仲間がよく集まる。



### アオスジアゲハ



### アオタテハモドキ



### タテハモドキ



### ツمامラサキマダラ



### リュウキュウムラサキ



### ツマグロヒョウモン



カワセミ  
魚を見つけると  
ダイビングキャッチ!

## 水の中をのぞいてみよう!



ミカワタヌキモ  
水面下を漂って生活する食虫植物。葉が変形してできた捕虫囊で水中の小さな生き物を捕獲する。夏から秋にかけて小さな黄色い花を水上に咲かせる。



ヒルムシロ  
楕円形の葉を水面に出して生活する。



スプタ  
全体を水中に沈めて生活する(沈水性)。オオウナギの池とトンボの池でよく見られる。



ミズオオバコ  
スプタと同じ沈水性。イモリの池に多い。



オモダカ  
矢尻のような形をした葉が特徴。夏に白くてキレイな花を咲かす。

## 水面を覆う植物たち



### セイヨウミズユキノシタに注意

水槽用の水草として流通する本種は、いま奄美大島で最も注意すべき侵略的外来植物として注目されている。水中のみならず泥地や湿った林道にも生える。葉の付け根に小さな花をつける(右上円内)

A~Cは在来種、D~Fは外来種。これらの植物は、旺盛な繁殖力で、数ヶ月放っておくと池の水面を覆ってしまうので、定期的に草刈りをしなければならない。

タネで広がるだけでなく、根や茎の切れ端からも再生してしまうので、駆除や草刈りの際に取りこぼしが無いよう十分な注意が必要だ。

- A ヒメガマ
- B イヌクログワイ
- C チゴササ
- D セイヨウミズユキノシタ
- E ホテイアオイ
- F アメリカハマグルマ

## 貴重な水辺を守るためにできること

生き物の観察を楽しんだら、もう一歩先に進んでみませんか?

### 自然について学ぼう!

今日見た生き物の名前を調べる、生活史を調べる・・・。そうやって知れば知るほど生き物が目に入ってくるようになります。自分の五感を使って野外で観察していくことで、図鑑などには載っていないような新しい発見ができるのもまた自然観察の醍醐味です。

さらに、いろいろな自然観察会に参加することも生き物や自然環境について学ぶよい機会です。生き物を守りたいと考えたときに最も大切なことは、彼らが生活する自然環境について“知る”ことなのです。



オオウナギの池にて、トンボの観察会(主催:奄美野鳥の会)

### 記録を残そう!

見つけた生き物の写真を撮って、その年月日と時刻、場所を記録しておくことは、自然の変化を知る上でとても大切な情報になります。ぜひ観察した生き物を記録に残してみましょう。



虫や花を撮るには、マクロ撮影(小さなものを大きく撮るテクニック)を身につけよう

### 環境を整備しよう!

人工の池は放置してしまうと、水面が植物で覆われてしまい、水中に十分な酸素が届かなくなり生き物が生息しにくい状態になってしまいます。止水環境を好む生き物たちにとって良好な環境を保つためには、適度な草刈りが必要です。

特に外来種のホテイアオイやセイヨウミズユキノシタは水面を覆う速度が速いため、侵入している池では駆除作業が必要です。

奄美フォレストポリスでは、行政や地元の自然保護団体が定期的に環境整備を行っています。このような環境整備活動に積極的に参加しましょう。

※ 池の整備には大和村の許可が必要です。勝手に池に立ち入ることはやめましょう。



池の草刈り整備の様子

トンボがいっぱい！  
池の周りで何しているの？

春から秋にかけて、トンボたちは繁殖のために池にやってきます。オスは池の上を飛び回ったり草の上に止まったりして、メスと交尾するチャンスを狙います。メスは交尾し、産卵するために池を訪れます。

交尾

上にいるオスが、メスの首をつかんで固定する。メスは、オスの腹部の付け根に自分の腹部の先をつけて交尾する。



オオシオカラトンボ



オオハラビロトンボ



リュウキュウベニイトトンボ



リュウキュウギンヤンマ

食事

繁殖活動の合間に栄養補給のために生きている虫などを捕まえて食べる。



アオモンイトトンボ  
交尾中にコブキヒメイトトンボの若いオスを捕食

産卵

産卵の方法は種類によって様々。ヤンマやイトトンボは草に止まって水中の草に産みつける。シオカラトンボやチョウトンボなどはメスが飛びながら腹部の先を水につけて水中に卵をばら撒く。



タイワンウチワヤンマ  
ベニトンボを捕食

昼間は森の中で休み、薄暗い時間だけ活動する種類もいる。梅雨の晴れ間の夕方、池の上空を見上げてみよう。



オオメトンボ  
オオウナギの池で水面近くを飛び回る。



ミナミヤンマ  
メスの前翅に黒い筋があり飛んでいてもよく目立つ。



リュウキュウカトリヤンマ  
人の目が効かない暗闇でも飛ぶことができる。

多くのトンボは羽化すると池から離れて生活し、1ヶ月くらいしてから池に戻って繁殖活動を始めます。トンボを守るためには、池だけではなく周辺にある森も守らなければなりません。

体の色の違い

同じ種類でもオスとメスで体の色が違う種類は、オスの方が鮮やかな色になることが多い。また、若い時と成熟してからでも色が異なることがある。  
オスが赤くなるタイプ、オスが青くなるタイプ、オスとメスがあまり変わらないタイプを紹介するよ。



タイリクショウジョウトンボ  
腹部の背中側にある黒い線が目立つ。



オオハラビロトンボ  
腹部が平たく幅広い。



ベニトンボ  
成熟したオスは翅の脈まで紅色。



シオカラトンボ  
成熟したオスは体に塩のような白い粉を吹く。池だけでなく駐車場や遊歩道にも出没する。



アオビタイトンボ  
オスもメスも額が青い



コシブトンボ  
体長3cmの小さなトンボ。岸近くの草の間にいる。



タイワンウチワヤンマ  
腹部の先にうちわ型の突起がある。他のトンボをおそって食べる。



オキナワチョウトンボ  
メスは前翅の先が透明。ひらひらと舞うように飛ぶ。



ハラボソトンボ  
腹部が非常に細い。